拓水

TAKUSUI
No. 744

10
October 2018

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

命を守る運動（ＪＦ仮屋）

2018年度 漁協系統功労者表彰受章者決定

ノリ採苗作業はじまる

《今月の海上安全標語》 ～ お薦めの品はこれです！ ～

「合羽が破れてしまって…」という貴方！

安全性も兼ね備えた良いものがありますよ ！ 浮力合羽が !!

「合羽（かっぱ）買う?」お薦めします　救命合羽 では、今月も安全操業で!

ようそろ

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

私の趣味

共水連兵庫県事務所　田中保法

私は、貸農園を借りて土日祝日を利用して毎週農園に行っています。妻の一言『趣味の1つも持っては』と言われ、一緒にするので、貸農園を利用しようとのことで始めました。ところが言った本人は、最初のころだけで今までに農園にきたのは、十回程度です。うまく騙されました。

畑の広さは、8mの畝が3本。土を耕すだけでも大変ですが、やってみるとイチゴ・トマト・サツマイモ・大根等四季折々の作物の収穫が出来ました。振り返ると収穫した作物の種類は二十種類を数えます。たいていの作物は、収穫までに半年ぐらいですが、イチゴは年中手がかかります。農園を利用し始めたころ、すぐ横でやられていた方がイチゴの苗があるのでやってみてはと薦められやること5年が経ちました。初めての収穫がうまくできたことで気を良くし、いい収穫ができた株を残して苗つくりをすることにしました。秋口までは水を切らすことができず土日祝日はもちろん平日も朝早くに水やりに行きます。十月に入ると定植を行い2月に入ると雑草が生えないように黒のマルチシートを張ります。2月下旬までは、寒さに耐えているのがよくわかり3月に入って暖かくなってくると日に日に成長しているのがよくわかります。そして5月初旬から中旬にかけて真っ赤に色づいたイチゴの収穫です。1年かけて育てて良かったと感じる一番いいときです。又、収穫したイチゴでジャム作りもし出来上がると家族がパンに付けて食べてくれ、いつもあっと言う間になくなります。イチゴに限らず種まきして芽が出るまでは、少し不安を感じ芽が出て伸びだすとほっとした気持ちになり実がなり収穫をするときに期待感と達成感を感じることができます。興味を持たれた方がおられたら一度チャレンジしてみてはいかがでしょうか。

CONTENTS

No.744　October. 2018

2　ようそろ

3　漁協系統功労者表彰受章者決定

4　ノリ採苗作業 はじまる！

摂播漁青連 今年も関学生協祭へ

5　“命を守る運動”海上安全講習会

6　のり網注意喚起

7　兵庫JCC通信

8　旬に想う

大輪田塾だより

「命を守る運動」（ＪＦ仮屋）　救命合羽

表紙の言葉

ライフジャケット着用義務化より早９ヶ月経ちました。皆様は、きちんとライフジャケット着用しておられることでしょう。

表紙の画像はＪＦ仮屋で行われた命を守る運動時に救命合羽を着用し海へ飛び込んだ洲本農林水産振興事務所の高倉さんです。

昨年11月に国が安全性を確認した証である桜マーク（型式認証）を取得した“救命合羽”の実力はいかがでしょうか。全身がガッチリ浮いて、安定感バツグンです。ぜひお試しを！

2018年度漁協系統功労者表彰受章者決定

～本県より3名が選ばれる～

ＪＦ全漁連（岸　宏会長）は、9月21日に2018年度（第33回）漁協運動功労者37人および第1回漁業振興功績者34人を発表しました。表彰式は11月22日に東京で行われる予定で、本県からは、ＪＦ育波浦代表理事組合長である小溝 政二氏が多くの功績を認められ漁協運動功労者表彰を受章されます。

またＪＦ神戸市副組合長理事の前田 勝彦氏とＪＦ浜坂理事の濱根 秀樹氏が本年度より新設された漁業振興功績者表彰を受章されます。

心よりお慶び申し上げますとともに、今後ますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

漁協運動功労者表彰

小溝　政二氏

ＪＦ育波浦　代表理事組合長
ＪＦ兵庫漁連　代表監事
日本漁船保険組合 兵庫県内海支所　運営委員
兵庫県漁港漁場協会　理事

漁業振興功績者表彰

濱根　秀樹氏

ＪＦ浜坂　理事

前田　勝彦氏

ＪＦ神戸市　副組合長理事

ノリ採苗作業 はじまる！

ＪＦ兵庫漁連（田沼 政男会長）は、本年度のノリ陸上採苗作業を、兵庫のり研究所（明石市）で９月25日（火）から、淡路のりセンター（淡路市）では９月28日（金）から開始しました。毎年、気温が下がってきた９月下旬から行われており、朝６時頃から大勢の職員、パートの皆さんが作業にあたっています。

検鏡作業でノリ胞子の付着度合いをチェック

兵庫のり研究所では11台の水車を使って採苗を行っており、漁業者からの品種や付着度合い等の注文に対応しています。担当職員らは、網を水車から外したり、新しく網を張ったりする作業のほか、付着度合いを確認するための網切りと検鏡作業、水温・照度のチェックなどの業務に追われていました。

のり海藻部によると、明石・淡路の現場での作業は順調で、10月中旬までに両センターで種網約51、000反を仕上げるとのことです。

本格的なノリ養殖開幕に、今漁期への期待が高まります。

地産地消で美味をアピール 摂播漁青連 今年も関学生協祭へ

関西学院大学生協祭に、今年も摂津播磨地区漁協青壮年部連合会から大西正起会長ら役員ほか９名が参加し、兵庫の漁業や魚食文化などをＰＲしました。

出展した10月17日（水）は、フライヤーを持ち込み、甘海老唐揚げ・アカエイ唐揚げ・タココロッケ販売し、お昼過ぎにはすべて完売する大人気でした。

同連合会は５年前から田和正孝同大学文学部教授（大輪田塾講師談顧問）のつながりで、ゼミ学生と消費流通の意見交換や魚食文化に関する情報発信など交流活動を続けており、ゼミ生の皆さんもタコ釣り漁体験や漁協で魚の水揚げやセリ見学、調理などを通じて地域漁業への関心を深めています。また、同連合会の活動には他の大学も教育的視点と地産地消文化の側面から大変関心を寄せられています。

漁業者自ら、生の声を学生達に伝える素晴らしい活動はこれからも続きます。

田和教授も来ていただきました

漁業者考案！「命を守るバルジとトッテとハッチ!?」
〝命を守る運動〟海上安全講習会

JF・系統団体による〝命を守る運動〟海上安全講習会が9月22日（土）にJF仮屋（岡田光司組合長）の事務所周辺岸壁で開催されました。JF仮屋、JF淡路島岩屋、JF森から約30名が参加し、ライフジャケットの常時着用に向けた周知はもちろん、万が一落水した場合の漁船への再乗船方法や対策をメインテーマとして開催されました。

開催の背景には、落水時にライフジャケットを着用していても船に上がることが出来ず亡くなることもあるということで、ライフジャケットの常時着用に加えて、落水時の救命策として「縄梯子(ライフロープ)」の普及も行ってきました。その他にも様々な方策を模索する中、JF仮屋相田欽司監事から、「漁船改造による安全対策」を考案したので、実行したいとの相談が漁船登録担当の洲本農林水産振興事務所高倉氏・髙木氏にありました。その後、約1年の試行錯誤の結果、9月上旬に無事漁船の改造が完了しましたが、企画段階から評判を聞きつけ興味を示す人が多く、「海上安全講習会等で紹介してもらえないか。」との強い要望もあり今回の講習会の開催となりました。

当日は、曇天かつ海水温が24度を切る状況で、海に入るには厳しい環境でしたが、高倉氏・髙木氏の両名が、相田氏の熱い思いに賛同し、自ら率先して海に入ることを提案していただき無事開催することが出来ました。

講習会では、はじめにライフジャケットの種類について説明が行われたあと、髙木氏が膨張式ジャケットを着用して海へ飛び込み、膨張までの時間や膨らみ方を確認しました。その後、船へ戻る際に小型の船外機船へよじ登ろうとしますが足を掛けるところがなく中々上がれない様子を目のあたりにすることが出来ました。

次に高倉氏が、県漁連が開発した「救命合羽」を着用し海に飛び込み、その浮力や浮き方を確認しました。今度は、過去に普及啓発に取り組んできた「縄梯子（ライフロープ）」を使用して船へ上がる方法が実演されました。「縄梯子」を使って船へ上がろうとしますが、はしご部分が船の縁へ入り込む等苦労して上がる様子を見学しました。

上がるのに一苦労

最後に今回の講習会の目玉である、「漁船改造による安全対策」の実演では、まずは、船尾の船底部分を40センチほど伸ばした【バルジ】とともに、船上に上がる為の【トッテ（取っ手）】と【ハッチ】などの改造内容の説明が行われた後、実際に延長された部分に一旦上がり、そこから取り付けた扉を開けてでてくる様子を見学しました（図1～3）。

実際に体験した高倉氏・髙木氏の両名から「若い自分達でも、船の舷側につかまるものが何もない場合や縄梯子では船に上がるのは非常に大変だった。一方改造漁船は比較的簡単に上がることが出来た。特に高齢者には非常に有効ではないか。」との感想が聞かれました。

実演中から、【トッテ】の位置【バルジ】の傾斜角度など多岐にわたる提案や情報・意見交換が行われるなど、非常に関心が高く、すでに改造を実施予定の漁業者もおられるとのことでした。

図1

図2

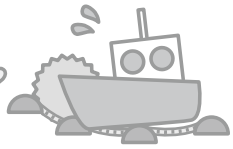
図3

相田氏は「落水時、この装備があっても100％命が助かるわけではないが、例え1％でも命が助かる確率をあげたいとの思いで考案しました。死亡事故が少しでも減ることを期待します」と述べられました。

※今回と同様の漁船改造には県による確認が必要ですので、興味のある方は必ず、所属JFもしくは、各農林水産振興事務所へご相談ください。

入口　下から押して開けます

あっ！のり網 入らないで



兵庫県沖では、毎年のり養殖施設への進入事故が発生しています。

事故の主な原因　●見張り不十分　●水路調査不十分　●船位未確認

進入事故（乗揚）防止のために！

★見張り

★水路調査

★船位確認

気象・潮汐・工事情報など

●海の安全情報（沿岸域情報提供システム）　アドレス http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/kobe/

▶「海上安全情報」または、「お知らせ」▶「海の安全に関する情報」「のり網設置情報」

スマートフォンをお持ちの方は、こちら▶

のり網設置情報　●兵庫県漁業協同組合連合会（JF兵庫漁連）　アドレス http://www.jf-net.ne.jp/hggyoren/

▶「のり養殖・漁場環境」▶「兵庫県 瀬戸内海「のり・わかめ等」養殖漁場」▶「全体図」、「拡大図」

毎年9月から翌年5月頃までの間、養殖漁場にのり・わかめの養殖施設（のり網）が設置されます。

養殖施設の周囲には、灯浮標（黄色の灯火）が設置され、区域を明示しています。
養殖施設の周囲及び漁場内には、灯浮標（ブイ）やのり網を固定するためのロープ等が多数張られており、近づくと絡網するおそれがあります。近づかないよう十分注意して下さい。
過去には、のり養殖に被害を与え高額の賠償を請求された事例が発生しています。

進入して動けない状況

「たじまに生きる　たじまを活かす」をスローガンに 但馬の米のブランド力強化を

ＪＡたじまは、「たじまに生きる　たじまを活かす」をスローガンに、但馬地域の特色をいかした自己改革に取り組んでいます。その中で、農業者の所得増大を目的とした、米のブランド力強化の取り組みを紹介します。

コウノトリが生息する円山川下流域と周辺の水田は、ラムサール条約の登録湿地となるなど、地域を挙げて自然環境の保護に取り組んでいます。同ＪＡは野生復帰したコウノトリが住みやすい環境づくりの一環として「コウノトリ育むお米」の栽培に取り組んでいます。同米を生産する４人の農家が平成30年1月、農産物の国際的な安全基準である、グローバルＧＡＰのグループ認証を取得しました。また、海外への輸出にも取り組んでおり、アメリカ、シンガポール、ドバイ、香港などへ定期的に輸出をしています。また、さらなる知名度の向上と需要拡大に向けて、2020年の東京オリンピック・パラリンピック大会の選手村で提供される食材として採用されることを目指しています。

今後は、GAPを取得した米について、全量有機ＪＡＳ認証取得を予定しています。有機ＪＡＳ認証は農薬等の化学物質を使わず生産された農畜産物であることを示すもので、安全・安心を追求したお米として、さらなるブランド力の強化を目指します。

グローバルＧＡＰのグループ認証を取得しました

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

健康な食に活かせる体験をあなたもぜひ！

見て！味わって！身につく！「食育ワークショップ」

生活クラブ生活協同組合都市生活では、健康な食生活に役立つ「食育ワークショップ」を、生協内だけでなく、地域でも展開しています。

８月26日（土）にＪＲ摩耶駅近くで開催された『まや六甲マルシェ』では、親子を対象に「作ればわかる！ジュースの色、香り、味の正体」と題して、実験や試飲を交えて、ジュースの正体に迫る体験をするワークショップを実施しました。「オレンジ」が入っているように見える清涼飲料水も、色・香りともに人工的な添加物で作れること、思っている以上に砂糖が含まれていること、また、あるものを入れることでたっぷり砂糖の入った飲み物でもスッキリ飲めること等、初めて知ったという参加者もたくさんいました。特に暑い夏は、水分摂取が大事ですが、「ジュースの正体」を知っていれば、熱中症にも効果がある牛乳や、家庭でお安く簡単にできる水出し茶を飲むなど、健康によりよい飲料を選ぶこともできます。

他にも、「おいしそうなソーセージにはウラがある？食品添加物レッスン初級編」「おにぎり実験でわかる！見えない添加物」等のプログラムがあります。

保育園、幼稚園、小学校や地域のイベント等に…とご興味を持たれた方、リーフレットをご希望の方は、生活クラブ生活協同組合都市生活（０７８－９０４－３２６０山本）までお問い合わせください。

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

旬に想う

写真と文
遊方子

オリーブの島で

紅葉

◆寒霞渓の紅葉を見たいと予てから希んでいたが、ご招待の懸賞に当たり思いがけず実現した。岡山日生港からフェリーで約一時間、瀬戸内海を渡って島へ上陸、瀬戸内海国立公園の一角である。土庄のエンジェルロードに隣接するホテルでバイキング形式の昼食を摂り満足感を味わった。生憎の満潮でエンジェルロードは渡れず見るだけになった。最良の紅葉期で、寒霞渓の善さをロープウェイ内から満喫した。本来は渓谷の遊歩道を巡って、断崖と岩が織り成す、表十二景・裏八景の美景を楽しむべきだが、アッと言うまに通過するロープウェイでは景色の善さを愉しむ余裕がない。行程の決ったツアーでは自由が無い。

◆小豆島の名産品はオリーブ油・醤油・蜜柑だとあり、特にオリーブの生育に最適で、道路脇にも大きな樹があった。オリーブ公園を散策したり、工作コーナーで可愛いリースを作って楽しんだ。枝を丸く輪にしリボンを結ぶだけの事だったが、愉しい一時になった。5センチほどの細い葉は、表が濃緑色で光沢があり、裏面は銀白色で毛が密生している。ハート形をした小さな葉を見つけると幸せをもたらすのだと、若者らがこぞって探し回る。枝には青い実を沢山着けていた。樹齢は極めて長く、スペインのマジョルカ島には千年を越え、なお果実を実らせる老樹があるそうだ。スペインで油といえばオリーブ油の事を指し、あらゆる料理に、オリーブ油を少しずつ添加し、香りを楽しんでいると聞いた。

◆オリーブの原産地は小アジアや地中海沿岸と北アフリカだそうだ。栽培の歴史は古く、紀元前三千年にクレタ島で作ったそうでギリシャ人による収穫風景が壁画として残っており、人類が最も古くから利用した植物という。最大用途はやはり油の製造であり、これが食用になり化粧品にもなる。神戸湊川神社のオリーブの古木が「神戸オリーブ園」の名残りという。パリ万博で苗木を購入、山本通りで試験栽培し油も製造したらしい。色んな事情で中止、栽培地として小豆島が成功して今に至っている。名残りの古木が別府の住吉神社にもある。

◆平和は人類の願いで、オリーブがそれを象徴する。第二次大戦後、二度と戦争が起きぬように『国連』が組織された。国連旗は、青地に白く北極中心の世界地図をオリーブの枝が囲む。北極から見下ろす形は、当時の東西冷戦と関連があり、米合衆国とソ連（当時）の広さが判り難いよう工夫してある。旧約聖書にノアの方舟から放した鳩がオリーブの枝を銜えて来る、40日後に放した鳩は戻らず陸地が乾いた事を知る。オリーブはギリシャの国樹、香川県の県木である。

大輪田塾だより

平成30年度 大輪田塾修了論文発表会

本年度の大輪田塾修了予定者が、これまでの研修の総仕上げとして行う大輪田塾修了論文発表会が、9月11日（火）兵庫県水産会館で開催されました。東根 壽塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役職員ら約50名が出席するなか、大輪田塾12期生6名は、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

発表後に行われた講評で、運営委員を代表して関西学院大学 田和 正孝教授から発表者全員の論文の単位が認定され、一人ずつの論文に対し詳しく評価がなされました。田和運営委員は「6名の発表はどれも大変優秀なものであったと」と話され、発表者は安堵の表情と共に、これまでの苦労が報われたようでした。

明石ダコの現状と今後について
JF林崎 福山 貴久（12期生）
指導員：南山 卓範（県加古川農林水産振興事務所）

次世代につながる活気ある漁村をつくるために
JF坊勢 前田 恵吾（12期生）
指導員：大野 泰史（県姫路農林水産振興事務所）

淡路の道
JF淡路島岩屋 中山 達貴（12期生）
指導員：瓢 雄介（県洲本農林水産振興事務所）

イカナゴ漁についての考察
JF坊勢 上田 剛輝（12期生）
指導員：西詰 宗弘（兵庫県漁業協同組合連合会）

どう防ぐ!? 船舶事故!!
JF淡路島岩屋 中山 大輔（12期生）
指導員：高倉 良太（県洲本農林水産振興事務所）

栽培漁業について
JF浜坂 中村 幸司（12期生）
指導員：田中 洋（県但馬水産事務所）

（発表順：敬称略）

修了論文発表の様子

質問に答える塾生

【修了論文認定審査員】東根 壽塾長（兵庫県水産振興基金）・田和正孝運営委員（関西学院大学）・平石靖人運営委員（県水産課長）・堀豊運営委員（県水技センター所長）・田中稔彦運営委員（JF兵庫漁連）・近藤敬三運営委員（兵庫県水産振興基金）

発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336